

記憶で紡ぐ千葉市の歴史

千葉市オーラルヒストリー

大賀ハス ~花びと会ちばインタビュー~ 編



千葉市

記憶で紡ぐ千葉市の歴史

千葉市オーラルヒストリー

大賀ハス ~花びと会ちばインタビュー~ 編



千葉市

大賀ハスマつりの普及に尽力

花びと会ちば 会長 仙波 慶子さん

副会長 高橋 公子さん



仙波慶子さん（左）と高橋公子さん（右）

——花びと会ちばの設立の由来について教えてください。

仙波…花の活動にかかわる市民・企業・生産者・まちづくり協議会が協力して、千葉市で花のあふれるまちづくりを推進しようと平成20（2008）年4月に設立されました。私はもともとまちづくりちば市民の会という団体に所属していて、花びと会ちばの初代代表の岡本正夫さんに声を掛けていただき、設立総会に参加しました。設立前に2年間準備期間があったそうなのですが、そこには参加していませんでした。

高橋…私は他県から千葉市に越ってきて、粘土クラフトなどの講師をしていました。たまたま若葉区で行われた寄せ植え講座に参加したときに、講師だった岡本さんに誘っていただきました。今まで土いじりをしたことはなかったんですが、興味があつて行ってみたら、その日が総会だったので。

——主にどのような活動をされていますか。

仙波…発足した年の6月から、千葉公園で大賀ハスマつりを開催しています。当初は「大賀ハスを観る会」という名称で、1日だけのイベントでした。大賀ハスの開花が7月だったので、その日に合わせて7月の第2土曜日くらいに開催していました。ところが、だんだん気温が高くなってきて、イベント時に花がすでに終



千葉モノレール「千葉公園駅」で下車すると、目の前に千葉公園の入口がある（提供／中西文明氏）

わってしまっていたことがあり、一週早めて、二週早めて、いまは6月の第3週目に落ち着きました。

いまでもそうなんです。実は千葉公園という場所があまり知られていないんです。中央公園とよく間違えられますね。公園の周りには道路がありますが、公園は一段低いんですよ。だから、道路を走っていても下に公園があることに気が付かない。また、千葉モノレールに千葉公園駅はありますが、駅を降りて公園に下がるというのがなかなか難しいみたいですね。

それから、JR千葉駅に「千葉公園口」というのを作ってもらったにもかかわらず、千葉公園口から千葉公園までの順路がなかなか分からないんです。道しるべを作ってほしいと市にお願いして、ハスのパネルをつけてもらいました。ただ、階段が西千葉に向い

ているんです。階段が千葉公園の方を向いていけばいいんですけど。駅口を出てUターンするのはなかなか難しくくて。だから電柱にハスのモニュメントをつけるとか、何とかしてくださいと市長に会うたびに直談判していました（笑）。でも大賀ハスマつりに来てくださる方がSNSで情報発信をしてくれて、船橋や習志野の方からも来てくだ

さるようになりました。

——いまは、平日も大賀ハスマつりが行われていますね。

仙波：平成28（2016）年に、千葉市の都市アイデンティティの一つとして大賀ハスが取り上げられ、大賀ハスが少し日の目を浴びてきたんです。もともと、一日だけじゃもったいないので土日の二日間にしたらという話を会の中でしていたんですが、市からも、もう少しやってほしいと依頼があり、土日を2回入れて4日間やろうということになったんです。ですが、お祭りとなるとその間の平日もやらなくちゃいけないよね、ということになって、1日が一挙に9日間になったんです。

そうすると大変なのは運営費です。多少は市から補助が出ますが、運営はやっぱり手弁当が多いんですよ。いろいろな団体とのつながりがあったので、最初のうちは千葉市文化振興財団のアーティストバンクに登録されているプロの方々に演奏していただくことにしました。後半の土日はもう資金がないので、市民演奏家に場の提供ということで、蓮華亭で演奏していただきました。本間にジュース一本くらいで来ていただきましたね（笑）。

期間中の平日は、その日いらっしゃった方に気軽に参加してもらえるように、ハスの花托をアレンジしてクラフトを作るというワンコインイベントを行いました。私たち1団体だけで運営するのは難しいので、近隣の幼稚園や保育園にお声がけして、ちはなちゃ

んの塗り絵をやってもらったり、地元の町会長さんに声をかけてチラシやポスターを張ってもらったりしました。個人情報保護の関係もあって、一般の伝手を頼りながらなんとか町会長さんに連絡を取って、少しずつ広がってきたという感じですね。

高橋：ワンコイン講座は人気で、10分くらいでいっぱいになっちゃうんです。「継続は力なり」ですね。この間の3月6日に行ったミニ蓮栽培講習会も、市政だよりに出たその日のうちに15人がいっぱいになったので、講師の南定雄先生に相談して二部制にしてみました。大賀ハスは系統保存の必要性から一般の方は咲かせることはできないんですが、ミニ蓮から大賀ハスにつながってくれば私たちもううれしいですね。



平成 31 年 (2019) 年 3 月 3 日に開催されたミニ蓮栽培講習会 (提供/花びと会ちば)

——イベントを広げるのに、どのような点に苦労されましたか。

仙波：他の団体がアンケートを取ったときに、大賀ハスがあるというのを知っているけれど深くは知らない、千葉公園もよく分からない、という結果が出ました。それで、大賀ハスマつりを開催するのにPRが必要だということになったのですが、行政の補助はなかなか難しい。ですから、とにかくいろんな企業に協力して

いただきました。

何年だったか、協賛会社の名前を入れて1本5000円でのぼりを作って、千葉公園の外周に自分たちで立てたんです。そうしたら、のぼりを見た人が何をやってるんだろうと気にかけてくれて、来場者が増え1万人を超えたんです。初めて来た方や、公園があること自体知らなかった方もいらっしゃいました。

とにかく、千葉市民でも大賀ハスが千葉市の花だということを知らない、千葉公園があることも知らない、千葉公園に行ったら大賀ハスがあるということも意外と知らないんです。ただ、大賀ハスの妖精のちはなちゃんは、学校給食で出る人参ゼリーのパッケージに使われているので、子どもたちは知ってるんですが。花びと会で大賀ハスマつりをやっているので協賛をお願いしますと言って、企業や銀行に行ったり、あちこちのぼりを置かせてもらったり、とにかくいろいろ紹介していただきました。

千葉市議会の中に花のあふれるまちづくり推進議員連盟（花議連）という連盟があるんですよ。平成25（2013）年に私が会長になってから、年に1回意見交換会をするようにしたんです。私たちの現状をお伝えして、大賀ハスマつりのPRを後押ししていただいています。

また、たまたま知り合いの伝手で、千葉駅で夕方30分間、大賀ハスマつりのチラシをまくことができましたよ。大賀ハスマつりののぼりとチラシを持って、ちはなちゃんを連れて、PRしました。2年前には千葉駅から千葉公園を通る駅からハイキングと

いうJRのイベントがあり、千葉駅の階段が大賀ハスマつりの階段アートになりました。かなりPRは広がってきたと思います。

高橋…千葉駅でのPRはいろいろと規制はありましたが、一つ飛び越えられたということは良かったですよ。足跡を残さないと次に進めないですよ。お金もない団体です。活動資金を作るために、ちはなちゃんグッズといってキーホルダーや人形などを行政の力を借りずに自分たちで作ったんです。新型コロナウイルスの影響で去年はまつりがなかったものですから、ちはなちゃんグッズの収入が入らなくて…。

仙波…大した金額ではないんですが、薄利多売ですよ。大賀ハスマつりに来た人たちが、お土産に買ってくださるんです。一筆箋を作るなど、あらゆることをやっています。そういう活動を通じて、いろんな方と知り合うことができました。

また、府中市や行田市など、大賀ハスを分根して作っているところがたくさんあるんです。そういうところに私たちも出かけていって、大賀ハス関連の団体さんと交流したりしています。

——象鼻杯というイベントはとてもユニークですね。

仙波…これは最初の開催時からやっています。とても人気があったて、わざわざ秋田県から来たという方もいらっしゃいました。



大人気の象鼻杯
(提供/花びと会ちば)

もお酒を出していますが、そのお酒も、資金がないからあちこち酒屋さんに頭を下げて寄付してもらっています(笑)。

——今年は大賀ハス発見70周年、来年は開花70周年を迎えますね。

仙波…「千葉市まちづくり未来研究所」という市の取り組みに参加して、大賀ハスを広げるためにどういう活動をしたいか意見を発表しています。大賀ハスを自宅で育てるのは難しいので、大賀ハスと同じく都市アイデンティティの一つである千葉氏に関する寺社などに大賀ハスを置いてもらうとか、千葉公園以外にも市内で大賀ハスを目にするのができる場所を作ろうということ提案しています。

さらに、千葉公園の大賀ハスが咲いているときにハスガイドをしていただくために、「ハス守りさん」を育てようと市に提言しました。今年で2年目でしょうか、市で養成講座を行ってもらってはいるんですけど、その後が続かないんです。講座修了生が自分たちの学んだことを実際に発表できる場づくりを、ある程度

行政が後押ししないと難しいと思います。

高橋…結局は受講生個人のスキルアップに終わってしまっているんですね。せっかくやっていただいているので、なんとか戻ってきてほしいということは、会議のたびにお伝えしています。

仙波…高いスキルを持っている人がいらっしゃるので、大賀ハスマつりのおきに、ハスマつり講座の修了生と一緒にガイドをやってもらっています。何年かかけて育てていこうと、ガイドのときにサポートについてもらったりしているんです。

平成30（2018）年には、千葉市の花に大賀ハスマつりが制定されてちょうど25周年ということで、大賀ハスマつり期間中に特別イベントをやったんですね。大賀ハスマつりをやっている団体は花びと会しかないものですから、私たちが中心になっているいろんな方々と協力してパネルディスカッションをやりました。来年の開花70周年に向けた取り組みも、実行委員会形式でやってほしいということになっていまして、花びと会と行政で声掛けをして、年度が変わったら第1回の実行委員会を開く予定です。私たちが6月が大賀ハスマつりなので、来年の6月中に開花イベントを取り入れられればいいかなと思っています。

制定25周年のときは、千葉公園に一番近い千葉市生涯学習センターでイベントを行いました。本当は土曜日にやりたかったんですけど、会場が取れない状態だったので、来年は早めに予約を取

る準備をしています。大賀ハスマつりになるとほかの団体というわけにはいかないので、やっぱり私たちが主体になると思います。

—お二人がいろんな方面に声をかけて、多くの方の協力で大賀ハスマつりは成り立っているんですね。

仙波…こういう活動をしているので、いろんな方が協力してくださるんですね。本当に人脈が増えましたね。

高橋…そういえば、象鼻杯をやるのに浴衣があった方がいいというところで、浴衣を作っていただきました。

仙波…わざわざハスマつりの花のデザインで反物を染めてもらったんです。花びと会の賛助会員で、和歌山県のご出身の方なんです。和歌山は大賀一郎先生のお弟子さんの阪本祐二先生の方なので、そのお子さんと同級生なんだそうです。和歌山県も大賀ハスマつりの取り組みを一生懸命やっているの、協力するよと言って反物を作ってくれました。和歌山県では、今年発見70周年のイベントをすると言っていました。だから千葉市は開花70周年を任せるよと言ってくれていますね。

大賀ハスマつりを通じて、人とのつながり、地域とのつながりがどんどん広がっています。私たちもこの縁を絶やさないように、これからも頑張っていきたいですね。

千葉市オーラルヒストリー

大賀ハス～花びと会ちばインタビュー～編

発行／千葉市中央図書館

発行日／令和3年3月31日

取材日／令和3年3月17日

資料提供／花びと会ちば、伊原茂久氏（表紙：大賀一郎博士）、
中西文明氏（表紙：大賀ハス、記念碑）



平成 25 (2013) 年に開かれた大賀ハスマつりの様子



平成 29 (2017) 年 6 月 17 日に開催された大賀ハスマつりのオープニング



令和 2 (2020) 年 6 月 27 ~ 28 日、万全の新型コロナウイルス感染対策を行い、「大賀ハス発見の由来」と題したを講談を開催。昨今の講談ブースもあり、間隔を空けた座席はすぐに満席に



平成 29 (2017) 年 7 月 22 日、大賀ハス開花 65 周年を記念して、蓮文化研究会・大賀ハスふるさとの会・花びと会ちばの 3 団体合同で、大賀ハスの未来について考える「大賀ハスシンポジウム」を開催。蓮文化研究会会長(当時)の南定雄氏(写真上)による講演や、パネルディスカッションなどが行われた



毎年手作りの会報紙を発行している。昨年 8 月の第 34 号からカラーにし、より読みやすくなった

(写真提供/花びと会ちば)

大賀ハスマつりの普及に尽力

花びと会ちば 会長 仙波 慶子さん

副会長 高橋 公子さん



仙波慶子さん（左）と高橋公子さん（右）

——花びと会ちばの設立の由来について教えてください。

仙波…花の活動にかかわる市民・企業・生産者・まちづくり協議会が協力して、千葉市で花のあふれるまちづくりを推進しようと平成20（2008）年4月に設立されました。私はもともとまちづくりちば市民の会という団体に所属していて、花びと会ちばの初代代表の岡本正夫さんに声を掛けていただき、設立総会に参加しました。設立前に2年間準備期間があったそうなのですが、そこには参加していませんでした。

高橋…私は他県から千葉市に越してきて、粘土クラフトなどの講師をしていました。たまたま若葉区で行われた寄せ植え講座に参加したときに、講師だった岡本さんに誘っていただきました。今まで土いじりをしたことはなかったんですが、興味があつて行ってみたら、その日が総会だったので。

——主にどのような活動をされていますか。

仙波…発足した年の6月から、千葉公園で大賀ハスマつりを開催しています。当初は「大賀ハスを観る会」という名称で、1日だけのイベントでした。大賀ハスの開花が7月だったので、その日に合わせて7月の第2土曜日くらいに開催していました。ところが、だんだん気温が高くなってきて、イベント時に花がすでに終



千葉モノレール「千葉公園駅」で下車すると、目の前に千葉公園の入口がある（提供／中西文明氏）

わってしまっていたことがあり、一週早めて、二週早めて、いまは6月の第3週目に落ち着きました。

いまでもそうなんです。実は千葉公園という場所があまり知られていないんです。中央公園とよく間違えられますね。公園の周りには道路がありますが、公園は一段低いんですよ。だから、道路を走っていても下に公園があることに気が付かない。また、千葉モノレールに千葉公園駅はありますが、駅を降りて公園に下がるというのがなかなか難しいみたいですね。

それから、JR千葉駅に「千葉公園口」というのを作ってもらったにもかかわらず、千葉公園口から千葉公園までの順路がなかなか分からないんです。道しるべを作ってほしいと市にお願いして、ハスのパネルをつけてもらいました。ただ、階段が西千葉に向い

ているんです。階段が千葉公園の方を向いていけばいいんですけど。駅口を出てUターンするのはなかなか難しくくて。だから電柱にハスのモニュメントをつけるとか、何とかしてくださいと市長に会うたびに直談判していました（笑）。でも大賀ハスマつりに来てくださる方がSNSで情報発信をしてくれて、船橋や習志野の方からも来てくだ

さるようになりました。

——いまは、平日も大賀ハスマつりが行われていますね。

仙波：平成28（2016）年に、千葉市の都市アイデンティティの一つとして大賀ハスが取り上げられ、大賀ハスが少し日の目を浴びてきたんです。もともと、一日だけじゃもったいないので土日の二日間にしたらという話を会の中でしていたんですが、市からも、もう少しやってほしいと依頼があり、土日を2回入れて4日間やろうということになったんです。ですが、お祭りとなるとその間の平日もやらなくちゃいけないよね、ということになって、1日が一挙に9日間になったんです。

そうすると大変なのは運営費です。多少は市から補助が出ますが、運営はやっぱり手弁当が多いんですよ。いろいろな団体とのつながりがあったので、最初のうちは千葉市文化振興財団のアーティストバンクに登録されているプロの方々に演奏していたり、だくことにしました。後半の土日はもう資金がないので、市民演奏家に場の提供ということで、蓮華亭で演奏していただきました。本当にジュース一本くらいで来ていただきましたね（笑）。

期間中の平日は、その日いらっしやった方に気軽に参加してもらえるように、ハスの花托をアレンジしてクラフトを作るというワンコインイベントを行いました。私たち1団体だけで運営するのは難しいので、近隣の幼稚園や保育園にお声がけして、ちはなちゃ

んの塗り絵をやってもらったり、地元の町会長さんに声をかけてチラシやポスターを張ってもらったりしました。個人情報保護の関係もあって、一般の伝手を頼りながらなんとか町会長さんに連絡を取って、少しずつ広がってきたという感じですね。

高橋：ワンコイン講座は人気で、10分くらいでいっぱいになっちゃうんです。「継続は力なり」ですね。この間の3月6日に行ったミニ蓮栽培講習会も、市政だよりに出たその日のうちに15人がいっぱいになったので、講師の南定雄先生に相談して二部制にしてみました。大賀ハスは系統保存の必要性から一般の方は咲かせることはできないんですが、ミニ蓮から大賀ハスにつながってくれば私たちもうれしいですね。



平成 31 年（2019）年 3 月 3 日に開催されたミニ蓮栽培講習会（提供／花びと会ちば）

——イベントを広げるのに、どのような点に苦労されましたか。

仙波：他の団体がアンケートを取ったときに、大賀ハスがあるというのを知っているけれど深くは知らない、千葉公園もよく分からない、という結果が出ました。それで、大賀ハスマつりを開催するのにPRが必要だということになったのですが、行政の補助はなかなか難しい。ですから、とにかくいろんな企業に協力して

いただきました。

何年だったか、協賛会社の名前を入れて1本5000円でのぼりを作って、千葉公園の外周に自分たちで立てたんです。そうしたら、のぼりを見た人が何をやってるんだろうと気にかけてくれて、来場者が増え1万人を超えたんです。初めて来た方や、公園があること自体知らなかった方もいらっしゃいました。

とにかく、千葉市民でも大賀ハスが千葉市の花だということを知らない、千葉公園があることも知らない、千葉公園に行ったら大賀ハスがあるということも意外と知らないんです。ただ、大賀ハスの妖精のちはなちゃんは、学校給食で出る人参ゼリーのパッケージに使われているので、子どもたちは知ってるんですが。花びと会で大賀ハスマつりをやっているので協賛をお願いしますと言って、企業や銀行に行ったり、あちこちのぼりを置かせてもらったり、とにかくいろいろ紹介していただきました。

千葉市議会の中に花のあふれるまちづくり推進議員連盟（花議連）という連盟があるんですよ。平成25（2013）年に私が会長になってから、年に1回意見交換会をするようにしたんです。私たちの現状をお伝えして、大賀ハスマつりのPRを後押ししていただいています。

また、たまたま知り合いの伝手で、千葉駅で夕方30分間、大賀ハスマつりのチラシをまくことができたんですよ。大賀ハスマつりののぼりとチラシを持って、ちはなちゃんを連れて、PRしました。2年前には千葉駅から千葉公園を通る駅からハイキングと

いうJRのイベントがあり、千葉駅の階段が大賀ハスマつりの階段アートになりました。かなりPRは広がってきたと思います。

高橋…千葉駅でのPRはいろいろと規制はありましたが、一つ飛び越えられたということは良かったですよ。足跡を残さないと次に進めないですよ。お金もない団体です。活動資金を作るために、ちはなちゃんグッズといってキーホルダーや人形などを行政の力を借りずに自分たちで作ったんです。新型コロナウイルスの影響で去年はまつりがなかったものですから、ちはなちゃんグッズの収入が入らなくて…。

仙波…大した金額ではないんですが、薄利多売ですよ。大賀ハスマつりに来た人たちが、お土産に買ってくださるんです。一筆箋を作るなど、あらゆることをやっています。そういう活動を通じて、いろんな方と知り合うことができました。

また、府中市や行田市など、大賀ハスを分根して作っているところがたくさんあるんです。そういうところに私たちも出かけていって、大賀ハス関連の団体さんと交流したりしています。

——象鼻杯というイベントはとてもユニークですね。

仙波…これは最初の開催時からやっています。とても人気があった、わざわざ秋田県から来たという方もいらっしゃいました。



大人気の象鼻杯
(提供/花びと会ちば)

もお酒を出していますが、そのお酒も、資金がないからあちこち酒屋さんに頭を下げて寄付してもらっています(笑)。

——今年は大賀ハス発見70周年、来年は開花70周年を迎えますね。

仙波…「千葉市まちづくり未来研究所」という市の取り組みに参加して、大賀ハスを広げるためにどういう活動をしたいか意見を発表しています。大賀ハスを自宅で育てるのは難しいので、大賀ハスと同じく都市アイデンティティの一つである千葉氏に関する寺社などに大賀ハスを置いてもらうとか、千葉公園以外にも市内で大賀ハスを目にするのができる場所を作ろうということ提案しています。

さらに、千葉公園の大賀ハスが咲いているときにハスガイドをしていただくために、「ハス守りさん」を育てようと市に提言しました。今年で2年目でしょうか、市で養成講座を行ってもらってはいるんですけど、その後が続かないんです。講座修了生が自分たちの学んだことを実際に発表できる場づくりを、ある程度

行政が後押ししないと難しいと思います。

高橋…結局は受講生個人のスキルアップに終わってしまっているんですね。せっかくやっていただいているので、なんとか戻ってきてほしいということは、会議のたびにお伝えしています。

仙波…高いスキルを持っている人がいらっしゃるので、大賀ハスマつりのおきに、ハス守り講座の修了生と一緒にガイドをやってもらっています。何年かかけて育てていこうと、ガイドのときにサポートについてもらったりしているんです。

平成30（2018）年には、千葉市の花に大賀ハスマつり期間中に特別イベントをやることと、大賀ハスマつり期間中に特別イベントをやることと、大賀ハスマつりをやっている団体は花びと会しかないものから、私たちが中心になっているいろいろな方々と協力してパネルディスカッションをやりました。来年の開花70周年に向けた取り組みも、実行委員会形式でやってほしいということになっていまして、花びと会と行政で声掛けをして、年度が変わったら第1回の実行委員会を開く予定です。私たちが6月が大賀ハスマつりなので、来年の6月中に開花イベントを取り入れられればいいかなと思っています。

制定25周年のときは、千葉公園に一番近い千葉市生涯学習センターでイベントを行いました。本当は土曜日にやりたかったんですけど、会場が取れない状態だったので、来年は早めに予約を取

る準備をしています。大賀ハスとなるとほかの団体というわけにはいかなかったので、やっぱり私たちが主体になると思います。

—お二人がいろんな方面に声をかけて、多くの方の協力で大賀ハスマつりは成り立っているんですね。

仙波…こういう活動をしているので、いろいろな方が協力してくださるんですね。本当に人脈が増えましたね。

高橋…そういえば、象鼻杯をやるのに浴衣があった方がいいというので、浴衣を作っていました。

仙波…わざわざハスの花のデザインで反物を染めてもらったんです。花びと会の賛助会員で、和歌山県のご出身の方なんです。和歌山は大賀一郎先生のお弟子さんの阪本祐二先生の方なので、そのお子さんと同級生なんだそうです。和歌山県も大賀ハスの取り組みを一生懸命やっているの、協力するよと言って反物を作ってくれました。和歌山県では、今年発見70周年のイベントをすると言っていました。だから千葉市は開花70周年を任せるよと言ってくれていますね。

大賀ハスを通じて、人とのつながり、地域とのつながりがどんどん広がっています。私たちもこの縁を絶やさないように、これからも頑張っていきたいですね。

千葉市オーラルヒストリー

大賀ハス～花びと会ちばインタビュー～編

発行／千葉市中央図書館

発行日／令和3年3月31日

取材日／令和3年3月17日

資料提供／花びと会ちば、伊原茂久氏（表紙：大賀一郎博士）、
中西文明氏（表紙：大賀ハス、記念碑）



平成 25 (2013) 年に開かれた大賀ハスマつりの様子



平成 29 (2017) 年 6 月 17 日に開催された大賀ハスマつりのオープニング



令和 2 (2020) 年 6 月 27 ~ 28 日、万全の新型コロナウイルス感染対策を行い、「大賀ハス発見の由来」と題したを講談を開催。昨今の講談ブームもあり、間隔を空けた座席はすぐに満席に



平成 29 (2017) 年 7 月 22 日、大賀ハス開花 65 周年を記念して、蓮文化研究会・大賀ハスふるさとの会・花びと会ちばの 3 団体合同で、大賀ハスの未来について考える「大賀ハスシンポジウム」を開催。蓮文化研究会会長(当時)の南定雄氏(写真上)による講演や、パネルディスカッションなどが行われた



毎年手作りの会報紙を発行している。昨年 8 月の第 34 号からカラーにし、より読みやすくなった

(写真提供/花びと会ちば)